2024年3月期 決算説明資料

2024年6月12日



スタンダード市場 証券コード:5388

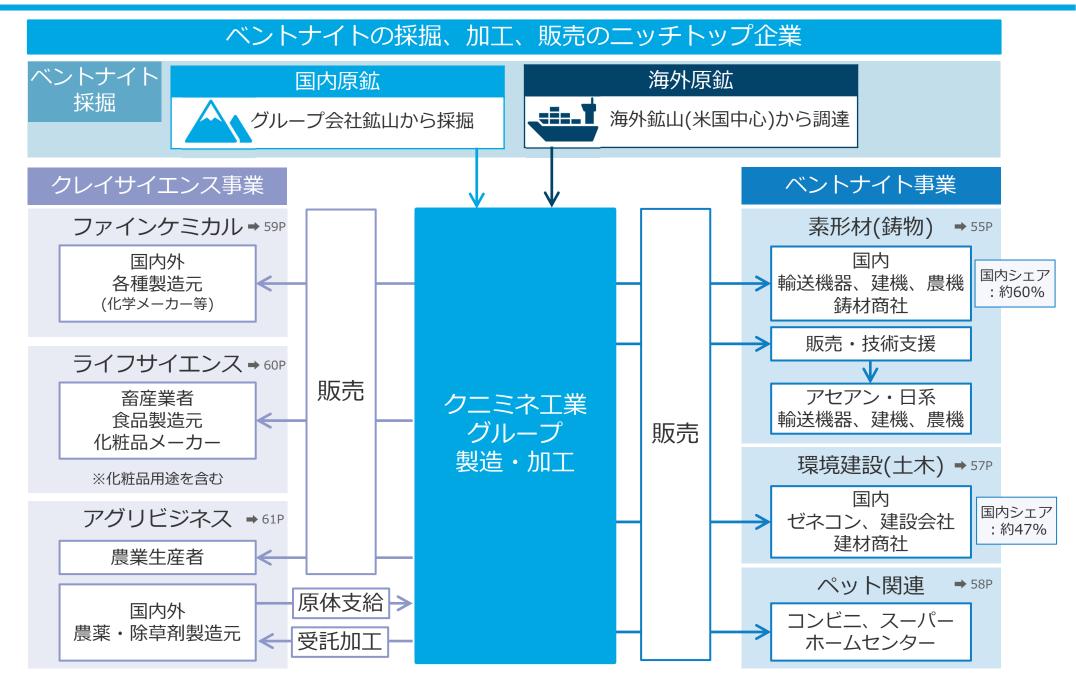




当社ビジネスモデル・事業目的

当社ビジネスモデル





当社事業目的



『資源を科学して未来のニーズを創造、産業の発展、社会インフラ整備に貢献する』

当社グループは、貴重な地下資源である「ベントナイト」の採掘・製造・販売事業のほか、ファインケミカル、アグリビジネス、ライフサイエンスを推進するクレイサイエンス事業を展開しております。未来のニーズを創造することで、お客様に新しい価値を提供し続けています。

■ クレイサイエンス事業

・粘土素材(クレイ)を科学(サイエンス)することで、 貴重な地下資源から持続可能な価値を創造し、既存領域 の拡大と新規事業の創出を推進

■ ファインケミカル

『粘土の未知なる魅力を発見し、粘土の力で世界を 変える』

• 高機能品(精製ベントナイト、合成スメクタイト等)

■ アグリビジネス

『農薬粒剤の生産活動を通じて食の安定供給に貢献し、 農業分野の多様なニーズに対応』

・農薬粒剤の受託加工、農薬向け原材料、成長促進剤

■ ライフサイエンス

『生命を事業領域と捉え、粘土の可能性を追求する』

• 畜産向け飼料添加物、赤潮対策剤、化粧品原料

■ ベントナイト事業

・モンモリロナイトを主成分とする粘土鉱物を加工し、 膨潤性・増粘性などの特性を活用して、様々な事業分野 に展開

■ 素形材(鋳物)分野

『耐熱特性に応じた製品、体系化した技術を通じて、 素形材産業にソリューションを提供する』

•鋳物用成型砂の粘結材

■ 環境建設(土木)分野

『土と水にイノベーションを起こし、地球環境 問題に貢献する』

•掘削地盤の壁面保護や地盤との隙間充填材

■ ペット分野

『ペットとの暮らしに快適さを与え、社会に癒しと 笑顔を創造する』

・猫用トイレ砂

本日のアジェンダ



- 業績トピックス
- 2024年3月期 決算概要
- 2025年3月期 予想 3
- 中期経営計画の状況 4
- サステナビリティへの取組み



1/5 業績トピックス

代表取締役社長 勢藤大輔

2024年3月期 決算業績トピックス



売上高	営業利益	経常利益	
15,675百万円 +2.3%	1,231百万円 +48.6%	1,644 _{百万円} +19.7%	

%:前年同期比

グループ 全体

● 増収増益

- •価格改定効果により、売上・営業利益ともに前年を上回る
- 外貨建資産活用による為替差益も、経常利益増に寄与

ベントナイト 事業

● 増収増益

・素形材分野を中心とした価格改定効果、ペット分野の販売 増が寄与し、売上・営業利益ともに大幅に前年を上回る

クレイ サイエンス 事業

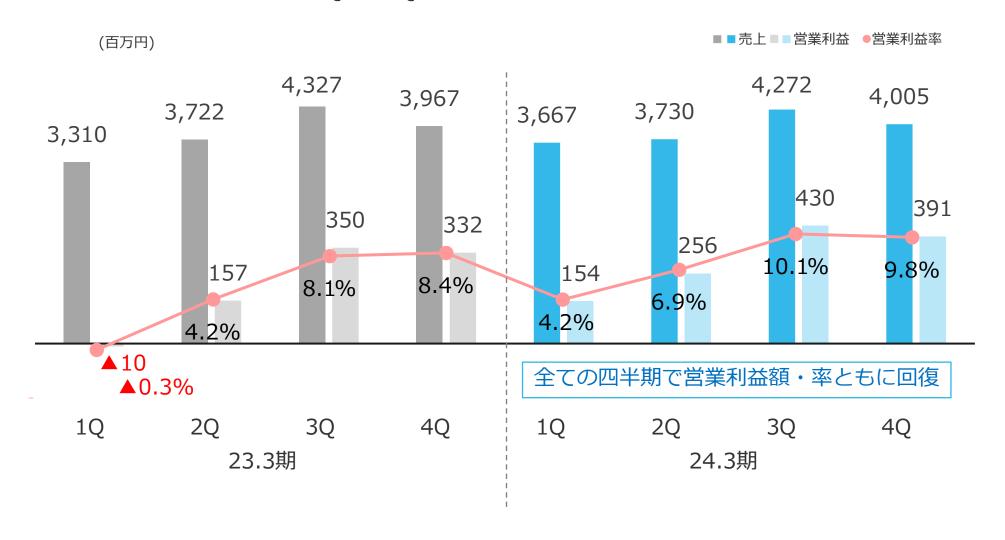
● 増収減益

・価格改定を下期より進め、売上は前年をわずかに上回るが、 販売・受託加工量の減少、製造原価上昇により、営業利益 は前年を下回る

四半期別業績推移



- 全ての四半期で前年度の営業利益を上回り、利益水準は回復・上期と下期の営業利益率の差は、アグリビジネスの業績計上が下期主体となるのが主要因
- 24.3期の営業利益率は3Q・4Qで概ね10%に到達





2/5 2024年3月期 決算概要

経営戦略部長 奥田順司

2024年3月期 決算概要

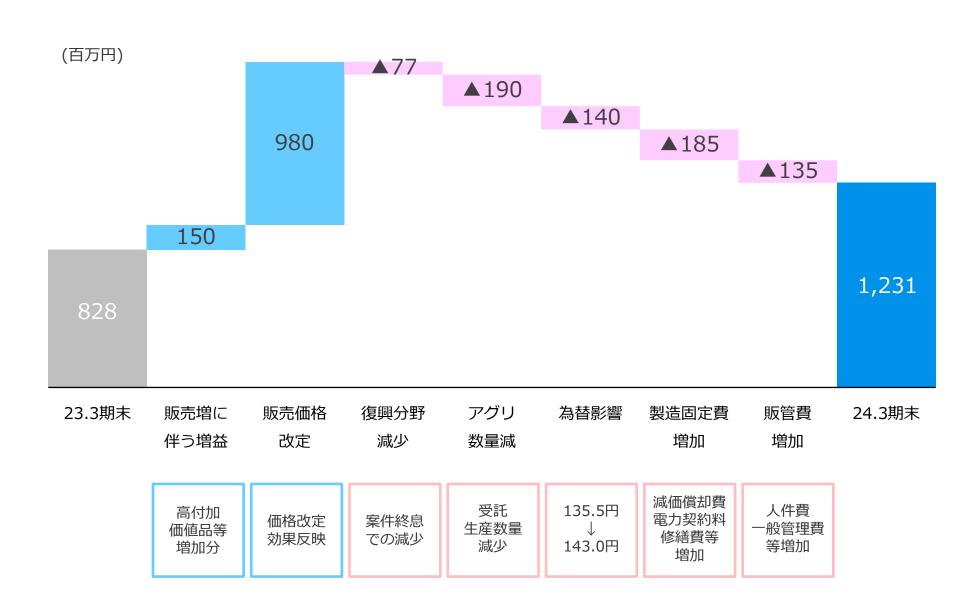


- ベントナイト事業を中心とした価格改定効果が大きく寄与し、大幅に増益
- 輸入原鉱決済に保有外貨建資産を活用し、差益により経常利益を上乗せ

(百万円)	2023年 3月期	2024年 3月期	前年同期比	2024年 3月期計画	当初計画比
売上高	15,325	15,675	+2.3%	16,700	▲ 6.1%
営業利益	828	1,231	+48.6%	1,600	▲23.0%
経常利益	1,373	1,644	+19.7%	1,800	▲8.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	842	1,043	+23.9%	1,200	▲13.0%

23.3期→24.3期 営業利益増減要因





セグメント別業績概要



	(百万円)	23.3期	24.3期	前年同	期比
	ベントナイト	10,987	11,329	342	3.1%
事業別 売上高	クレイサイエンス	4,338	4,346	8	0.1%
	合計	15,325	15,675	350	2.3%
	ベントナイト	615	1,387	772	125.4%
事業別 営業利益	クレイサイエンス	639	443	▲196	▲30.6%
	合計	1,255	1,831	576	45.8%
全社費用等		▲ 426	▲ 600	▲174	-
営業利益		828	1,231	403	48.6%

概要

ベントナイト

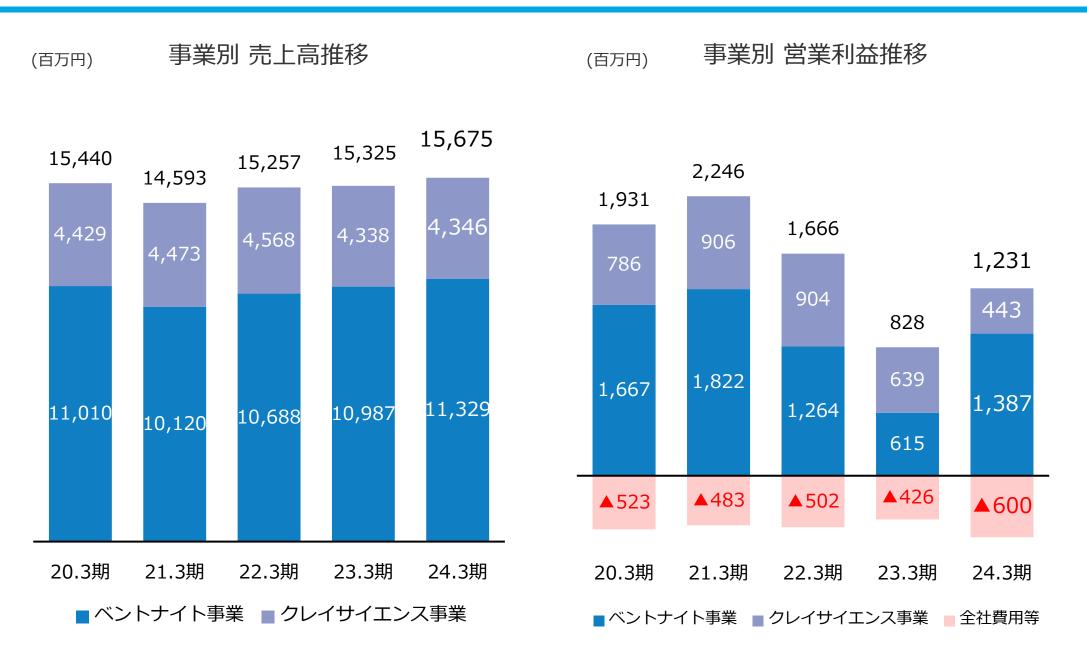
● 素形材分野を中心とした 価格改定効果により、 大幅に増収増益

クレイサイエンス

- 価格改定と新規受託案件 の拡大を見込むが、コス ト増加と受託生産量減少 により、増収減益
- 全社費用等
 - •ベースアップ実施、活動 正常化による販管費増加

補. 事業別業績推移





ベントナイト事業 業績内訳



(百万円)		23.3期	24.3期	前年同	期比
	素形材(鋳物)	6,409	6,972	563	8.7%
事業別	環境建設(土木)	3,642	3,351	▲291	▲7.9%
売上高	ペット	934	1,004	70	7.4%
'	合計	10,987	11,329	342	3.1%
	素形材(鋳物)	214	952	738	344.8%
事業別	環境建設(土木)	377	409	32	8.4%
営業利益	ペット	23	26	3	13.0%
	合計	615	1,387	772	125.4%

概要

素形材(鋳物)

● 前年からの価格改定効果 と、関連商材の販売拡大 を進め、大幅に増収増益

環境建設(土木)

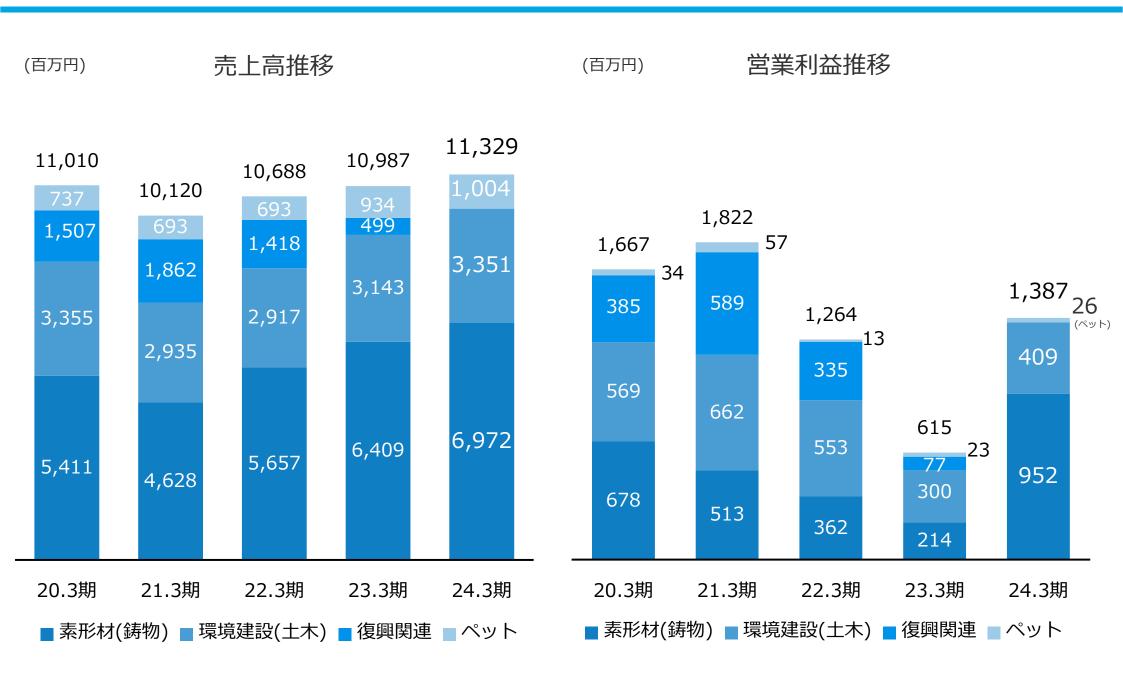
● 都市土木等の案件減少 するも、高付加価値品 販売とコスト節減により、 減収増益

ペット

● 価格改定・販売増で増収。 開発投資が先行し微増益

補. ベントナイト事業 分野別業績推移





クレイサイエンス事業 業績内訳



	[
	(百万円)	23.3期	24.3期	前年同	期比
	ファインケミカル	1,337	1,372	35	2.7%
事業別	アグリビジネス	2,774	2,703	▲ 71	▲2.6%
売上高	ライフサイエンス	226	269	43	18.8%
合計		4,338	4,346	8	0.1%
	ファインケミカル	107	34	▲ 73	▲68.0%
事業別	アグリビジネス	577	400	▲ 177	▲30.6%
営業利益	ライフサイエンス	▲ 45	8	53	_
	合計	639	443	▲196	▲30.6%

概要

ファインケミカル

● 価格改定を進めるが、 製造コスト増加分をカ バーできず、増収減益

アグリビジネス

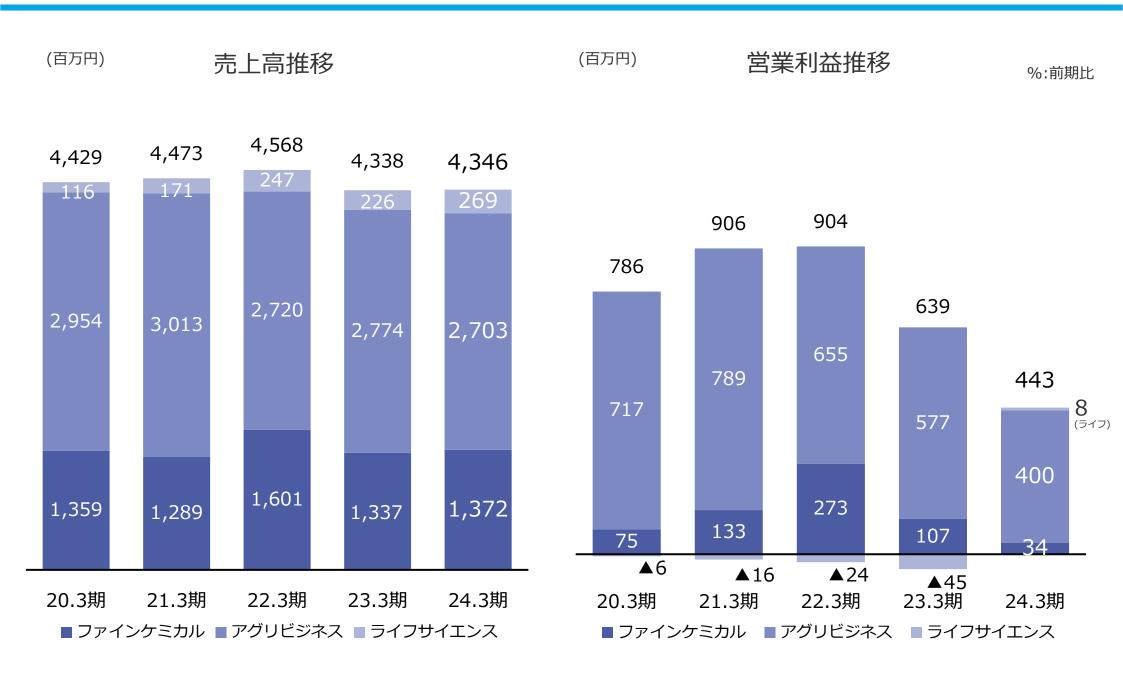
● 種子コーティング案件等 を拡大するが、受託案件 当たりの生産量減少と、 コスト増加で、減収減益

ライフサイエンス

● 高機能品販売増と価格改 定効果により、増収増益

補. クレイサイエンス事業 分野別業績推移





補. セグメント別 上期下期別業績



		(百万円)		23.3期 (上期)	23.3期 (下期)	合計
		≠π∠++/∠≠₩m\	売上高	3,005	3,405	6,409
		素形材(鋳物)	営業利益	▲37	251	214
		エᲚオ÷ス∌モハ/҆┼ ╎ \	売上高	1,879	1,763	3,642
		環境建設(土木)	営業利益	240	137	377
		ペット	売上高	419	515	934
		7\9 F	営業利益	5	18	23
	•	^*^. ト → ∠ ト ≡+	売上高	5,304	5,683	10,987
		ベントナイト計	営業利益	208	407	615
		ファインケミカル	売上高	692	645	1,337
			営業利益	94	13	107
		アグリビジネス	売上高	919	1,855	2,774
			営業利益	32	545	577
		ニノコサノエヽ.フ	売上高	116	110	226
		ライフサイエンス 	営業利益	▲13	▲31	▲ 45
	j	フレイサイエンス計	売上高	1,727	2,611	4,338
		アレイタイエン人間	営業利益	113	527	639
	全社費用グループ計		_	▲175	▲252	▲ 426
			売上高	7,032	8,293	15,325
		フルーフ p l	営業利益	146	682	828

24.3期 (上期)	24.3期 (下期)	合計
3,512	3,460	6,972
480	472	952
1,782	1,569	3,351
246	163	409
490	514	1,004
0	26	26
5,785	5,544	11,329
727	660	1,387
632	740	1,372
▲25	59	34
838	1,865	2,703
▲ 93	493	400
140	129	269
2	6	8
1,612	2,734	4,346
▲ 116	559	443
▲200	▲ 400	▲ 600
7,397	8,278	15,675
411	820	1,231

2024年3月期 貸借対照表の概要



2023年3月期末

総資産 24,560百万円

+668 百万円 2024年3月期末

総資産 25,228百万円

(百万円)

流動負債 2,049 1,161 固定負債 流動資産 16,410 純資産※1 21,349 固定資産 自己資本比率 8,150 84.5%

(百万円)

流動負債 2,118 +69 固定負債 1,242 +80 流動資産 16,821 +411 純資産※2 21,867 +518固定資産 自己資本比率 84.0% 8,406 +256

※2: 非支配株主持分は665百万円

※1: 非支配株主持分は590百万円

流動資産:

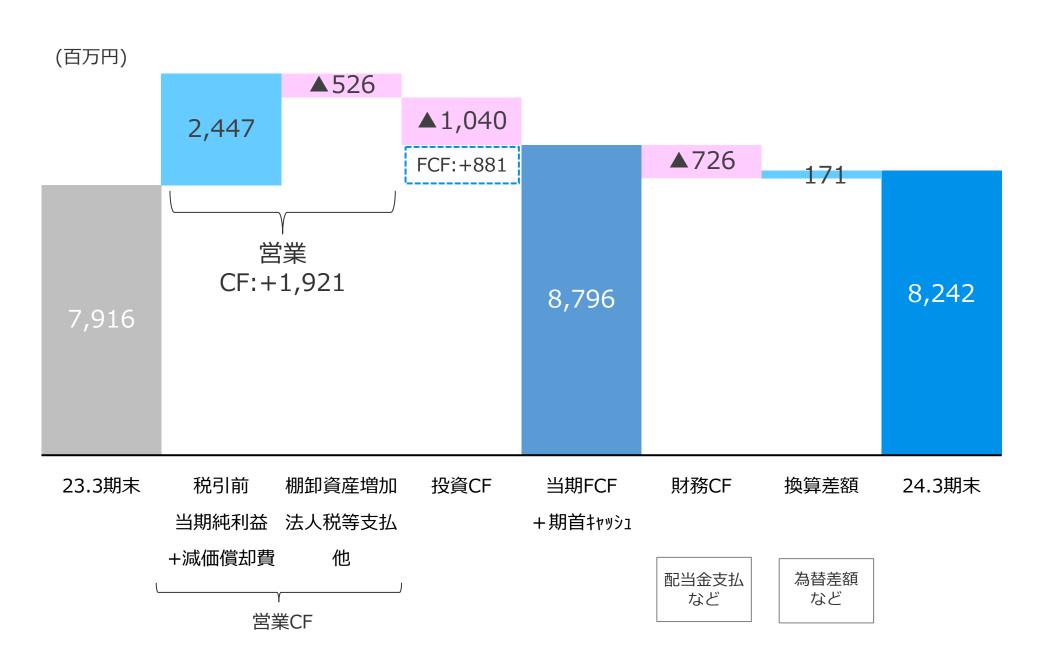
現金同等物 7,916

流動資産:

現金同等物 8,242

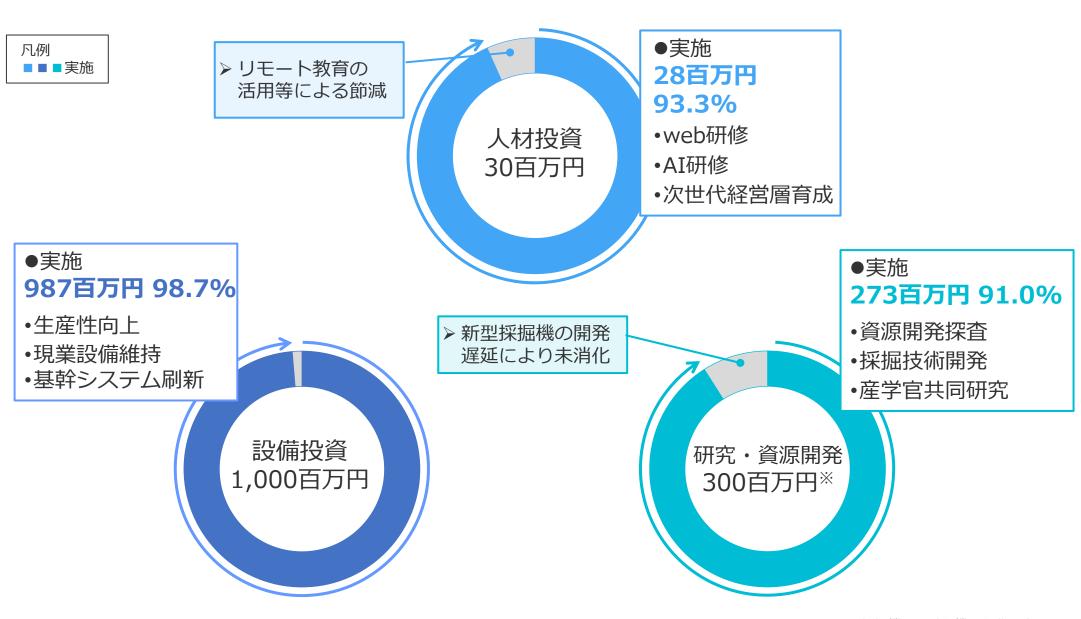
2024年3月期 キャッシュフロー要約





投資計画の状況





※採掘機器の試作機制作費用含む





3_{/5} 2025年3月期 予想 代表取締役社長 勢藤大輔

2025年3月期 通期予想

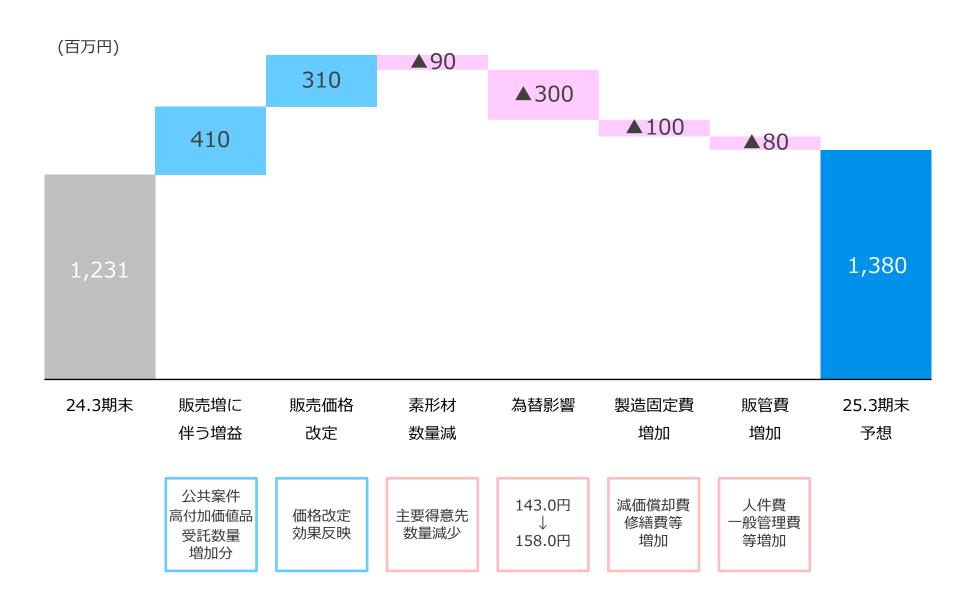


- 販売量拡大とクレイサイエンス事業を中心とした価格改定効果により、増収見込
- 円安影響(想定為替レート:158円/\$)によるコスト増加により、最終利益は減益 を予想

(百万円)	2024年 3月期	2025年 3月期予想	前年同期比
売上高	15,675	16,300	+4.0%
営業利益	1,231	1,380	+12.1%
経常利益	1,644	1,560	▲ 5.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,043	1,037	▲0.6%

24.3期→25.3期 営業利益増減要因(予想)





セグメント別業績概要(通期)



	(百万円)	24.3期	25.3期	前年同	期比
	ベントナイト	11,329	11,560	231	2.0%
事業別	クレイサイエンス	1,642	1,840	198	12.0%
売上高	アグリ	2,703	2,900	197	7.2%
	合計	15,675	16,300	625	4.0%
	ベントナイト	1,387	1,045	▲342	▲ 24.6%
事業別	クレイサイエンス	43	305	262	609.3%
営業利益	アグリ	400	650	250	62.5%
	合計	1,831	2,000	169	9.2%
全社費用等		▲ 600	▲ 620	▲20	-
営業利益		1,231	1,380	149	12.1%

概要

ベントナイト

● 製品および関連商品販売 拡大を見込むが、円安 影響でのコスト増加に より、増収減益

クレイサイエンス

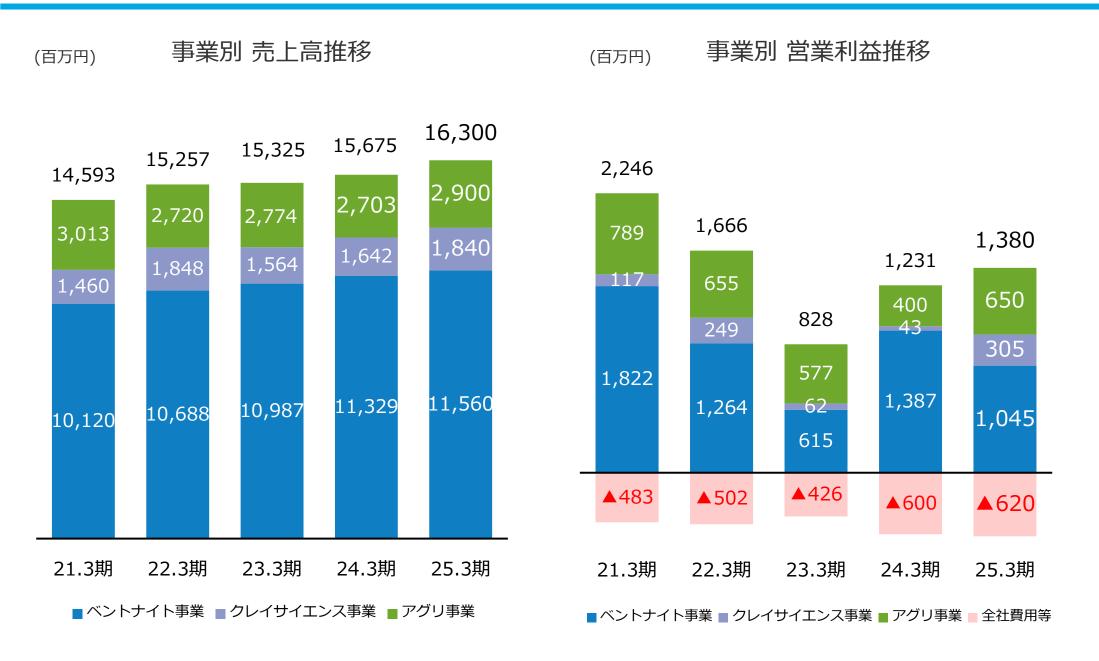
● 価格改定と新製品の販売 拡大、コスト低減を進め、 増収増益

アグリ

- 価格改定と新規受託獲得、 種子コーティング案件の 増加を見込み、増収増益
- 全計費用等
 - •ベースアップの実施等による 販管費増加

補. 事業別業績推移(通期)





ベントナイト事業分野別業績内訳(通期)



	(百万円)	24.3期	25.3期	前年同	期比
	素形材(鋳物)	6,972	6,700	▲272	▲3.9%
事業別	環境建設(土木)	3,351	3,660	309	9.2%
売上高	ペット	1,004	1,200	196	19.5%
,	合計	11,329	11,560	231	2.0%
	素形材(鋳物)	952	560	▲392	▲ 41.1%
事業別	環境建設(土木)	409	440	31	7.5%
営業利益	ペット	26	45	19	73.0%
	合計	1,387	1,045	▲342	▲24.6%

概要

素形材(鋳物)

関連商材を含め販売拡大 を進めるが、主要得意先 減産や円安影響により 減収減益

環境建設(土木)

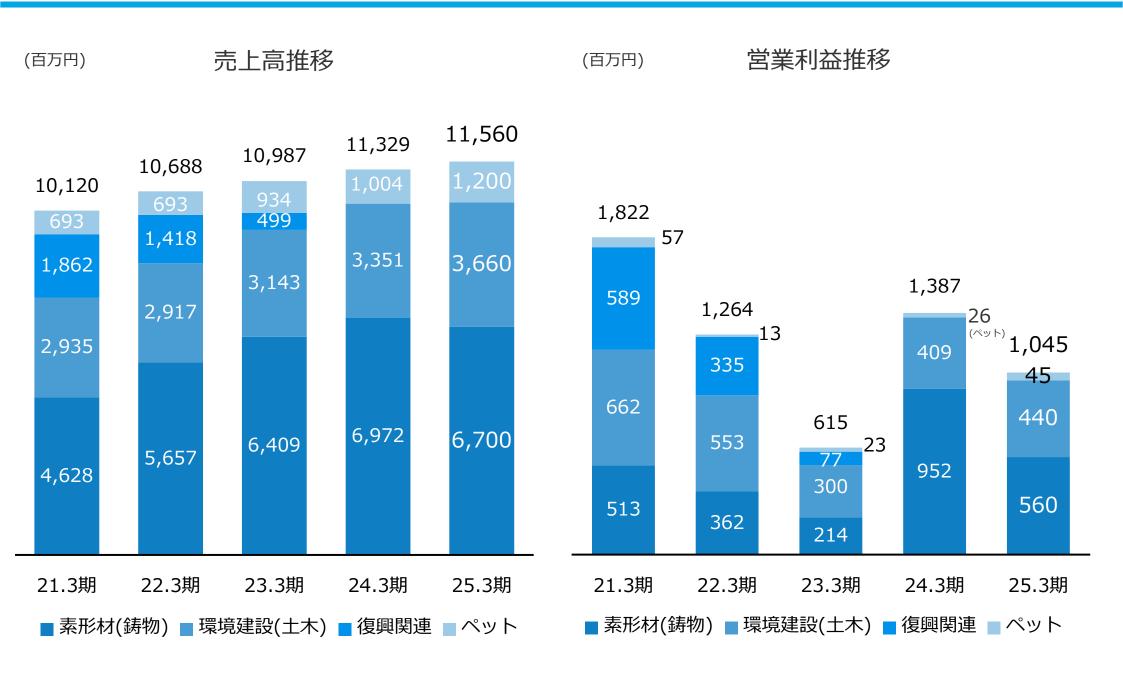
● 公共工事案件の獲得に加 え、低レベル放射性廃棄 物処理案件の稼働・獲得 を見込み、増収増益

ペット

● 価格改定継続と、新製品 投入により、増収増益

補. ベントナイト事業 分野別業績予想

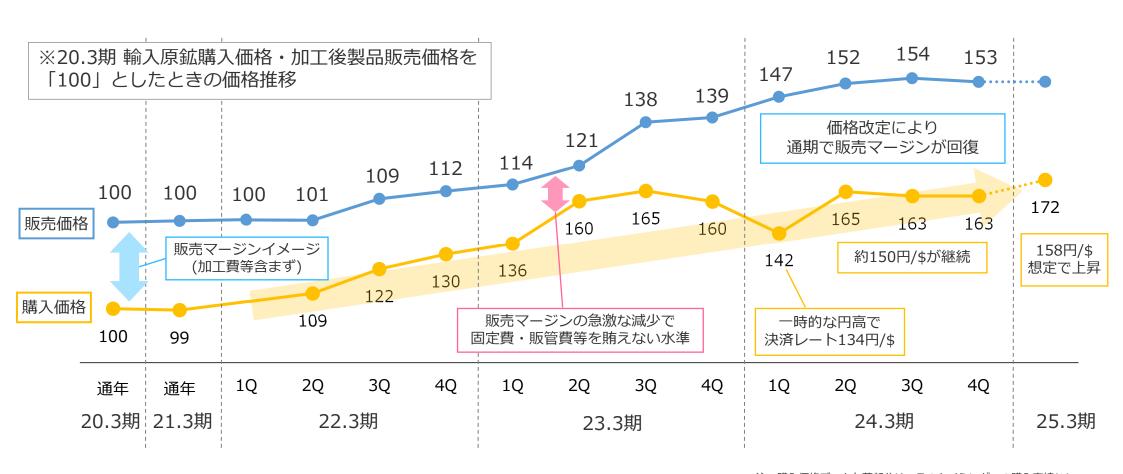




輸入原鉱 購入・販売価格推移 (素形材)



- 24.3期の為替レートは、一時円高になるが2Q以降は約150円/\$で推移(通期平均143円/\$)。 輸入鉱価格は高止まりするも価格改定効果により、通期で販売マージンは回復
- 円安トレンド継続とインフレによる各種コスト上昇が予見されるため、今後も情勢を見て機動的 な価格戦略を継続



注:購入価格データ欠落部分は、そのタイミングでの購入実績なし

クレイサイエンス事業 業績内訳(通期)



	(百万円)	24.3期	25.3期	前年同	期比
	ファインケミカル	1,372	1,500	128	9.3%
事業別 売上高	ライフサイエンス	269	340	71	26.3%
	合計	1,642	1,840	199	12.0%
	ファインケミカル	34	205	171	502.9%
事業別 営業利益	ライフサイエンス	8	100	92	1,150.0%
	合計	43	305	262	609.3%

概要 ファインケミカル

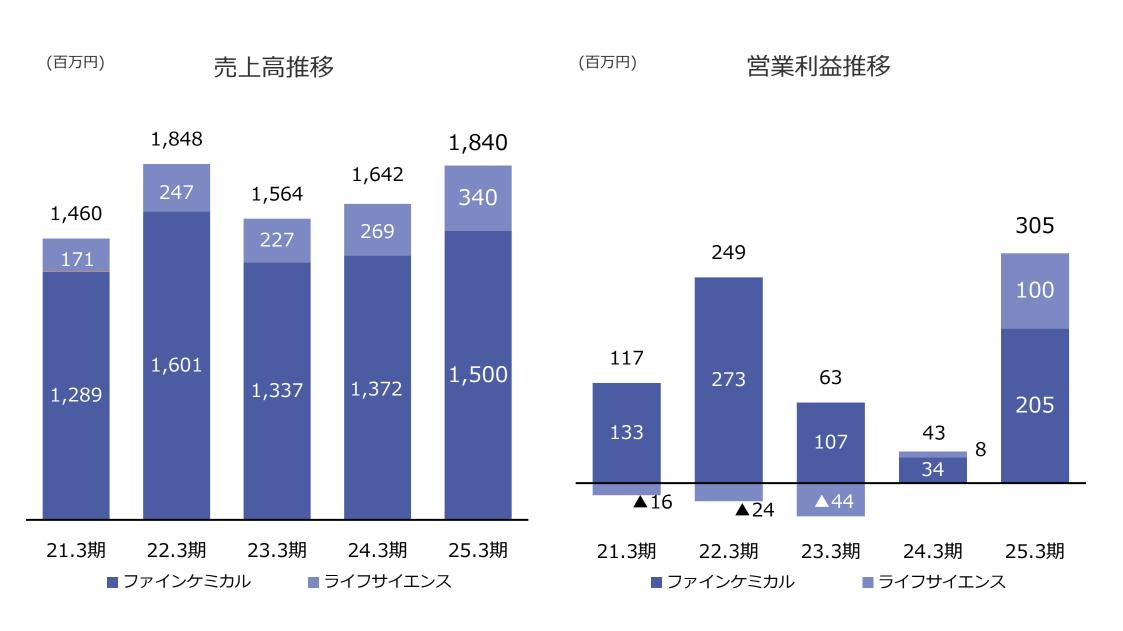
● 価格改定効果を見込むと ともに、コスト低減を進 め、増収増益

ライフサイエンス

● 価格改定効果と新製品 投入により、増収増益

補. クレイサイエンス事業 分野別業績予想





補. セグメント別 上期下期別業績予想

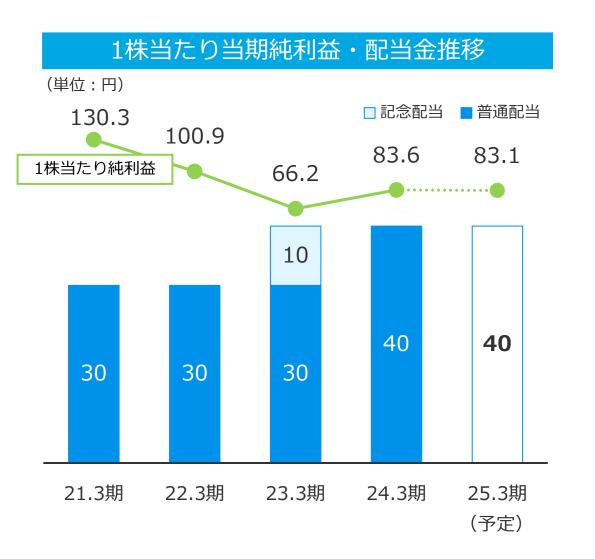


	(百万円)		24.3期 (上期)	24.3期 (下期)	合計
	= πζ++/ ζ ≠μ _m \	売上高	3,512	3,460	6,972
	素形材(鋳物)	営業利益	480	472	952
	理+辛Ζ争=ル(+ ★)	売上高	1,782	1,569	3,351
	環境建設(土木)	営業利益	246	163	409
	ペット	売上高	490	514	1,004
	/\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\	営業利益	0	26	26
·	ベントナノト計	売上高	5,785	5,544	11,329
	ベントナイト計	営業利益	727	660	1,387
	ファインケミカル	売上高	632	740	1,372
		営業利益	▲25	59	34
	ライフサイエンス	売上高	140	129	269
		営業利益	2	6	8
	フレイサイエンス計	売上高	772	869	1,642
	ノレイソイエン人前	営業利益	▲23	65	43
	アグリ	売上高	838	1,865	2,703
		営業利益	▲ 93	493	400
	全社費用	_	▲200	▲ 400	▲ 600
	 グループ計	売上高	7,397	8,278	15,675
		営業利益	411	820	1,231

25.3期 (上期)	25.3期 (下期)	合計
3,200	3,500	6,700
270	290	560
1,800	1,860	3,660
215	225	440
600	600	1,200
20	25	45
5,600	5,960	11,560
505	540	1,045
730	770	1,500
95	110	205
170	170	340
50	50	100
900	940	1,840
145	160	305
1,000	1,900	2,900
100	550	650
▲300	▲320	▲ 620
7,500	8,800	16,300
450	930	1,380



- 当社グループは「株主の皆様に対する安定的な利益還元」を経営最重要課題のひとつ としており、継続的な利益還元に努めてまいります
- 25.3期の配当は、1株当たり40円を予定しております



配当の具体的方針

- ✓ 配当性向30%を目安
- ✓ 1株当たり配当金の下限を40円に設定
- ✓ 中間配当の実施(24.3期より)

安定配当を継続し、中長期的には 利益向上による増配を目指してまいります



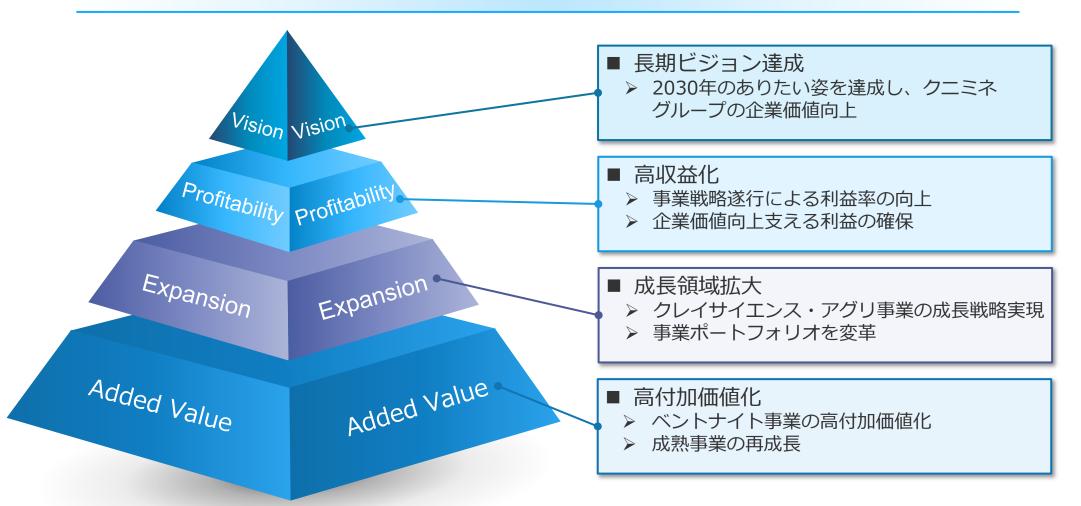
中期経営計画の状況

長期ビジョン設定 2030年のありたい姿



● クニミネグループの永続的な社会貢献と企業成長に向け、新しい価値の創造、 既存ビジネスの転換や進化を行うべく、2030年(31.3期)までの長期ビジョンを設定

経世済民の理念に基づき、経済的側面から國の繁栄に貢献 持続的な成長を通じた企業価値の向上



長期ビジョンの位置づけ



● 現在と次期の中期経営計画を合わせた2030年(31.3期)までの期間を、長期ビジョン (Kunimine Vision 2030) と設定

Kunimine Vision 2030

前中期計画

現中期経営計画 [24.3-26.3]

次期中期経営計画(予定) [27.3-31.3]

2030年 ありたい姿 実現

- ▶既存事業を深化させ、収益 を維持拡大
- ▶成長事業の探索を進め、 イノベーションを通じて 新規需要を開拓

成長に向けた足場固め

【ROE目標:6.4%+】

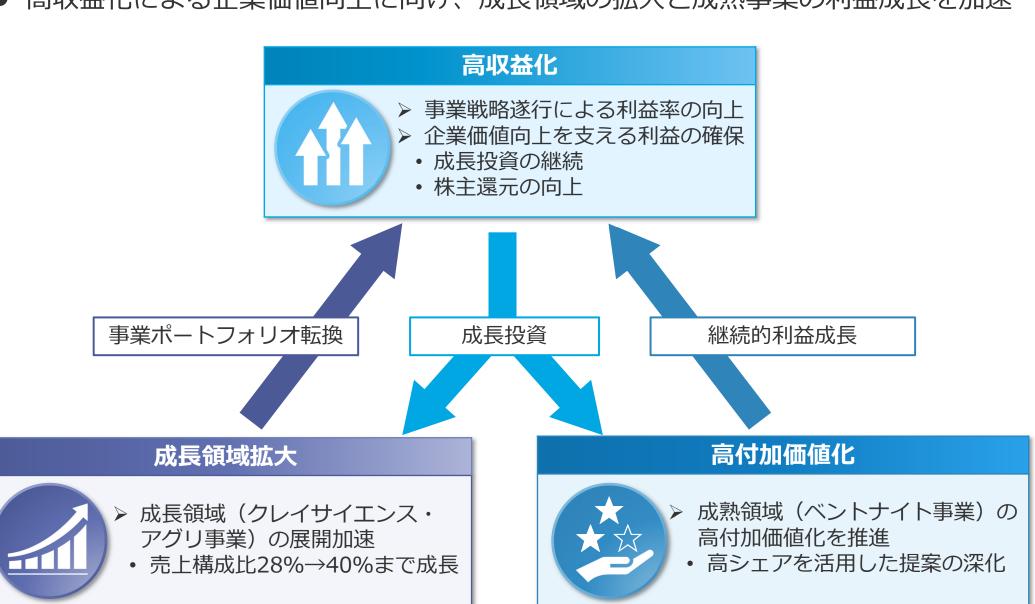
- ▶成長事業の拡大を図り、 新たな収益の柱を確立
- ▶ありたい姿の実現に向け、 企業価値を向上

高収益化を実現

【ROE目標:8.0%+】



● 高収益化による企業価値向上に向け、成長領域の拡大と成熟事業の利益成長を加速



主要研究開発テーマ



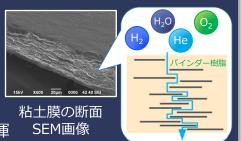
研究開発を通じて成長領域拡大を加速し、社会貢献と企業価値向上を推進

機能特性

将来の貢献分野

ガスバリア 材料

- 高アスペクト比の粘土 結晶が積層することで、 迷路効果により ガスバリア性が発現
- 気体の中でも透過しや すい水素・ヘリウムに も、高いバリア性を発揮



- 気体の漏れ防止や、空気に 触れると劣化する部品の 保護に活用が期待される
- 次世代エネルギーとなる 水素の保管タンク、電子 部品、シール材等に展開





3次元 細胞培養

- 細胞培養を行う際に、培地に 粘土鉱物を添加すると、細胞 株を効率良く3次元的に増殖 可能
- 高価な培地や容器が必要な癌 細胞培養実験を安価で行え、 癌研究や治療薬の開発に貢献



- 癌細胞だけでなく、様々 な細胞培養への活用に 向け、研究開発を継続
- 3次元細胞培養を通じて 医学発展に貢献し、培養 ビジネスのモデルを確立



化粧品 原料

- 粘土鉱物は、肌に優しく安全 性、安定性の高い化粧品原料 として古くから活用
- 増粘性に加え、吸着性・ 保湿性・乳化安定性にも優れ、 多様な機能を担保



- 粘性や吸着性以外の機 能性を探索し、化粧品 の高機能化を実現
- より高純度で、肌に 優しい新製品を、国内 外に展開



補. 近年の活動状況①(ガスバリア材料)



産学官連携によるイノベーション創出

社会実装に向けた応用開発

2022(FY)

2022/11

2023/2

2023

2023/10

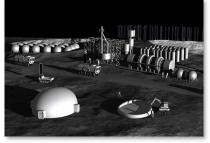
2024/2

2024

- ●JAXA/産総研共同研究(11月末終了)
- 水素ガスバリア塗工液のプロトタイプ完成
- ・ 当社製品を活用した塗工液に、月面の過酷な 環境でも高いガスバリア性を有することを確認
- ●アンカーコート剤の開発
- 基材へのガスバリア塗工液密着性向上を目的とした専用の下地処理剤
- 実用化に向け、各顧客との共同開発を実施

ガスバリア塗工液 アンカーコート剤 基材

密着性向上



JAXA宇宙探査イノベーションハブ との共同研究

• ガスバリア材料とは、水蒸気や酸素

等のガスの侵入を遮断する為の材料

ガスバリア材料となる粘土と樹脂を

分散させた塗工液を作製し、基材に

コーティングすることで、高いガス

バリア性を付与することが可能

■ ガスバリア塗T液

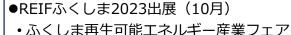
●nano tech 2023出展

・ 当社技術の紹介と 顧客アプローチを推進





【当社出展ブース】



- 粘土を用いた水素ガスバリア塗工液の開発
- ●nano tech 2024出展(2024年2月)





- ●その他 参加・技術発表実施先(2023) →2024FYも継続参加予定
- •福島県再工ネ研究会 水素分科会
- 粘十科学討論会
- 宇宙科学技術連合講演会

【今後の活動】

- ●営業活動
- ・実装に向けた課題抽出・改良を 進め、顧客ニーズに沿った作り 込みを継続

●展示会

- REIFふくしま 2024、nano tech 2025 出展予定
- ●研究開発
- 産総研再生可能エネルギー研究所 との連携開始 (シーズ支援事業採択)
- •福島県産業イノベーション創出 支援事業に採択

補. 近年の活動状況②(3次元細胞培養)



産学官連携によるイノベーション創出

市場創造と製品展開

2022(FY)

2023

2024 2024/05

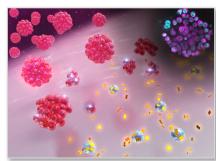
- ●大阪大学辻川教授と共同研究
- ・AMED 生命科学・創薬研究支援基盤事業(BINDS)の支援の下、スフェロイド(細胞の凝集塊)形成剤としての可能性探索を継続

●論文投稿

•英国王立化学会発行の学術誌 『Lab on a chip』 に、大阪大学辻川教授との共著で当研究分野の 論文を投稿し受理、掲載



Lab on a Chip 21 February 2023



合成粘土が癌細胞に 取り込まれるイメージ

■ Lab on a Chip

• 世界中から寄せられる化学、生物学、生物工学、物理学、 臨床科学、化学工学、材料科学など、様々な分野の マイクロ及びナノスケールの研究論文を審査・選考して 収録・公開する、世界的に権威ある査読付き学術誌

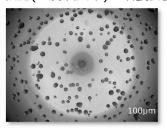
■ 3次元細胞培養とは

- 人工的に作製された環境で細胞の凝集塊 (スフェロイド)を形成し、細胞をより生体内 に近い3次元的な状態で培養する方法
- 培養器内でも生体内と近い環境となるため、 細胞を人工的にあらゆる方向に増殖させること が可能
- 古くから行われている平面培養(2次元培養) では得られない高い細胞活性が見られる事から、 薬物試験や、動物実験の代替、再生医療など、 様々な分野で注目されている培養法

【接着培養容器を用いたHT29細胞(大腸癌由来)の培養例】



平面培養 (2次元培養)



3次元細胞培養 (当社試薬使用)

●Kuni-Grow+販売

• 富十フイルム和光純薬㈱より、スフェロイド 形成促進剤として5/10より試薬販売開始



Kuni-Grow+

■ Kuni Grow+

・従来の2次元培養向け の基本的な培地に添加 するだけで、細胞に 作用してスフェロイド 形成を短期間で可能と する革新的な試薬

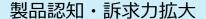
【今後の活動】

●営業活動

- パートナー企業と 連携した商品認知 活動と、販売拡大 を推進
- ●研究開発
- 産学官連携による、 癌細胞以外での 応用に向けた研究 継続

補. 近年の活動状況③ (化粧品原料)





市場ニーズ探索・製品改良継続

顧客ニーズに即した提案推進

2021/02

2022(FY)

●COSMOS Approved (コスモス承認)取得

クニピア-F/G/G4の 3製品が承認を受け、 高品質を訴求した 営業活動が可能に

統一基準

■ COSMOS (以下コスモス) とは

原料等にコスモス認証が与えられる

使用が認められている

「Cosmetic Organic and Natural Standard」

の略語。オーガニック化粧品に関する欧州の

• 「COSMOS Approved」は、コスモス基準に 従って製造されたノンオーガニック原料である

ことを示し、コスモス認証を受けた化粧品への



●CITE JAPAN2023出展 アワードの技術部門で銀賞受賞

「モンモリロナイトを用いた 界面活性剤フリー乳化粉末技術」



2023/10

^{2024/02} **2024**

●日本化粧品技術者会 SCCJセミナー にて技術講演

【講演資料】

KUNIMINE INDUSTRIES 乳化技術に対する粘土鉱物の効果 -ピッカリング乳化物としての可能性-クニミネ工業株式会社 クレイサイエンス事業本部 いわき研究所

【出展資料】

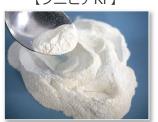


【受賞ロゴ・トロフィー】



- ●クニピア-RF 販売開始
- ・クニピア-Fの高純度タイプ
- 粘土の主成分モンモリロナイト が、99wt%以上の新製品
- •より高品質な原料を求める、 ハイエンド化粧品がターゲット

【クニピアRF】



【今後の活動】

- ●営業活動
- ・クニピア-RF、界面活性剤 フリー乳化技術の紹介を軸に、 引き続き顧客提案を実施
- ●CITE JAPAN2025出展準備
- 新機能/新技術を市場投入 すべく準備中

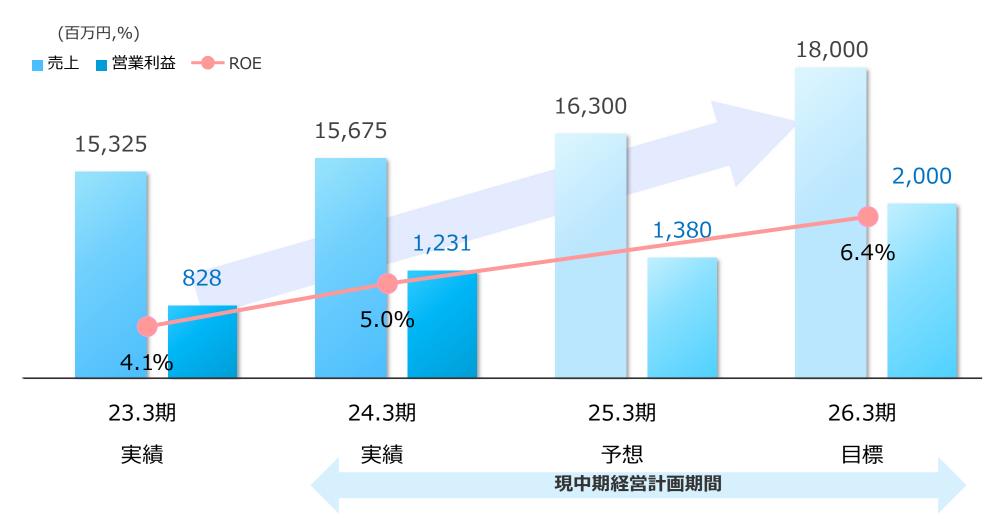


厳しい審査基準を満たした商品やオーガニック

中期経営計画の業績状況



- 中期経営計画初年度(24.3期)は、当初の業績目標には未達(売上:▲1,025百万円/ 営業利益:▲369百万円)となるも、23.3期より大幅に伸長し業績は回復基調
- 25.3期は想定為替レートの影響により営業利益は微増に留まるが、最終年度の 目標達成に向け、市場開拓と機動的な価格戦略を継続





5_{/5} サステナビリティへの取組み 代表取締役社長 勢藤大輔

サステナビリティへの取組み



■ 当社グループにおけるサステナビリティの考え方・基本方針

クニミネ工業グループは『経世済民』の経営理念を掲げ、貴重な地下資源であるベントナイトを中心に、高付加価値商品や サービスの展開により基幹産業を支え、国の繁栄に貢献してまいりました。

当社グループが中核事業として取り扱うベントナイトは、自然環境への負荷が少なく、生命体と環境にやさしい無機鉱物です。 この貴重な資源を科学し、未来のニーズを創造することで、社会への価値を提供していきたいと考えています。

当社グループの技術を活用して、廃棄物処理などの社会課題の解決や、新たな産業を支援・創出していくことがESGへつなが る取り組みと考えており、事業活動を通じて社会的な目標であるSDGsの達成を目指しております。

環境(E)

- 環境へ配慮した取り組みを進めて まいります
- 自社CO2排出量の低減
- 循環型社会の実現を目的とした静脈産業 への貢献
- 持続可能な社会に向けた製品の一層の研究・開 発の促進











社会(S)

- 人材投資の強化、労働環境を整備し、 地域社会に貢献してまいります
- AI教育やRPA研修の推進など人材投資の強化
- 女性活躍推進法の推進
- 育児・介護休暇、年次有給休暇等の取得推進
- 高齢者雇用安定法に適切に対応し、長く 働ける環境の整備
- 各拠点の経済活性化のため、地元の自治体や企 業との協力







ガバナンス(G)

- リスクマネジメントを強化し、 持続可能な経営を目指します
- 取締役会の監査・監督機能の一層の強化の ため、監査役会設置会社から監査等委員会 設置会社への移行
- 取締役会の機能の一層の向上を図るため、 取締役会の実効性評価を開始
- 内部通報制度の実効性向上のため、独立した社 外の内部通報窓口を設置
- 取締役会の透明性を更に向上させるため、 独立役員を1名増員して4名体制に(4名/10名)

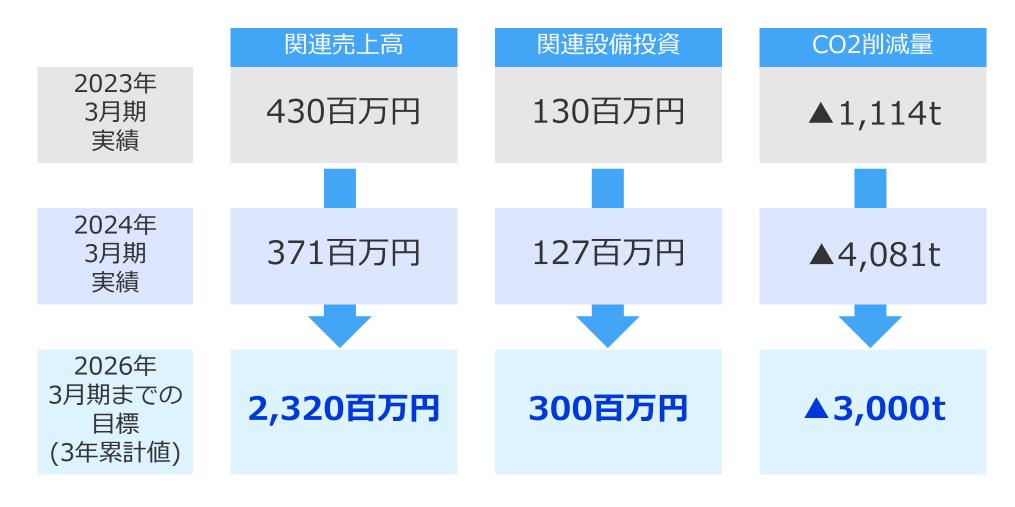




サステナビリティ関連事業機会目標値



- 当社グループでは、サステナビリティに関連する事業機会として『重金属、放射性廃棄物 処分事業』『地熱発電事業』『農林水産振興事業』を重要事業機会と捉えて営業活動の強化、 CO2排出量の削減、関連する研究開発投資、設備増強投資に注力して参ります
- 2026年3月までの目標値に、以下内容を掲げております



人材の多様性確保・育成に関する目標値



- 当社グループは、性別・年齢・国籍・人種・宗教・障害の有無・性自認および性的指向等に関わらず、 社員一人ひとりが、感受性や価値観等の違いを尊重し、企業価値向上および社会貢献を目指せる社内制度 構築および環境整備を推進し、多様性を新たな発想、視点へとつなげ、組織横断的に連携し、イノベー ションに向けて突き進んでいく集団を作り上げることを目指します
- 2026年3月までの目標値に、以下内容を掲げております



※1:株式会社ビズアップ総研が提供するオンライン研修サービス「e-jinzai」への月毎のアクセス数の平均。 同一講座の重複受講及び全体教育は除外。

% 2:調査には(株)アトラエが提供する「wevox」を利用、"自己成長への支援"を集計

※3:役員・短期臨時員・パートタイマーを除く

※4:重大労働災害:死亡、負傷又は疾病により、障害等級第1~7級に該当した労働災害

カーボンニュートラルに向けた取組み



カーボンニュートラルに向けた中長期的対応

- 中期的な対応(~2030年)はCO2削減を重点課題とし、太陽光パネル・水力発電(小規模)・高効率燃 焼設備・各種省工ネ機器等のあらゆるエコ設備の導入を、可能な限り進めていく
- 長期的な対応(~2050年)では、Scope1のCO2削減に向け、原鉱の採掘段階から見直しを進めていく。 具体的には原鉱の含水率低減を狙いとし、採掘技術・細粒化技術の高度な開発を進めることで製造工 程の大幅な見直しを図る。加えてコストダウンも進め、競争力強化にもつなげていく

Scope2 排出量目標:ゼロ (全体排出量は、20.3期比較で 40%削減)

Scope1 排出量目標:ゼロ



長期的対応(~2050)



- 環境低負荷製品へのシフト
- CO2フリー電力切替/太陽光パネル導入
- エコ設備(EV・LED照明等)の導入

- 原鉱採掘・細粒化技術の高度化
- 技術革新燃料(水素/人工メタン) への切替え : カーボンフリー燃料

Scope1
Scope2

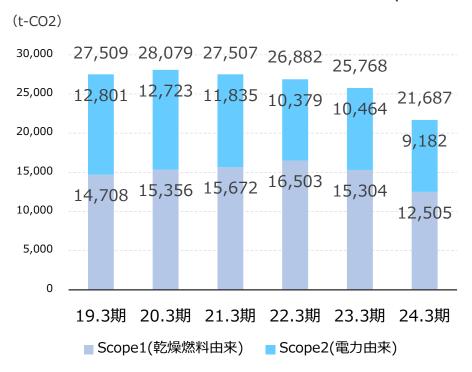
	領域	24.3期までの取組み内容
	Scope1	・ 高効率燃料への切替(いわき工場:灯油→LNG)
>	Scope2	・ 車両(社用車/フォークリフト)のEV・HV化
		• 工場照明(水銀灯)、事業所居室照明LED化
		・ 太陽光パネルの設置(工場屋根等)、CO2フリー電力切替

当社グループCO2排出量の状況



- 24.3期の当社グループCO2排出量は、前期比▲4,081t-CO2となり大幅に削減
 - ・ いわき工場(高機能品クニピアを生産)がLNG導入効果で前期比▲2,282t-CO2となり、大幅削減に寄与
- 今後もカーボンニュートラルの達成に向け、 CO2排出量削減を進めていく

当社グループCO2排出量推移(Scope1.2)



製品生産量・生産単位あたりCO2排出量 推移



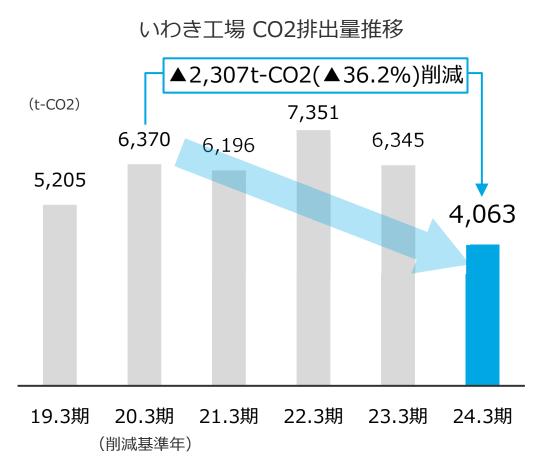
*Scope 1:製造等での燃料使用によるCO2直接排出 *Scope 2:購入した電気の使用によるCO2間接排出

* 各数値は省エネ法に基づく定期報告値より作成

いわき工場 CO2排出量の状況



- いわき工場では、23.3期4Qより乾燥工程で使用する燃料を、灯油からLNGへ切替実施
- 高効率燃料の使用でCO2排出量を大幅に削減し、24.3期は前期比▲2,282t-CO2の実績
 - ・削減基準年(20.3期)からは▲2,307t-CO2(▲36.2%)の削減
- 更なるCO2排出量の削減に向け、今後も生産工程の見直しなどを進めていく





24.3期までの取組み内容の結果



①高効率燃料への切替(いわき工場:灯油→LNG)

• 乾燥工程で使用する燃料を高効率のLNGに切替





期待効果:

▲900t-CO2削減

②車両(社用車/フォークリフト)のEV・HV化

•車両を現場環境(気候・傾斜等)に応じ、EV・HV化を促進







目標:80%

現場環境を加味した

最大値

③工場照明(水銀灯)、事業所居室照明LED化

工場の水銀灯と、事業所居室の蛍光灯照明のLED化推進

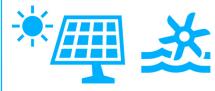




LED化目標: 50%(現状) →100%

④発電設備導入(太陽光パネル・小規模水力発電)

• 丁場建屋への太陽光パネル設置、近隣の河川・用水路での水力発電



各地区丁場の 環境条件を確認中

結果



- SCOPE1排出量▲2,152t-CO2 (23.3期→24.3期)
- 大幅な削減に成功

結果



- 83%導入
- 更新タイミングに合わせ、対象 車両の更新を実施

結果



- 約90%の設置完了
- 設置工事の遅れにより、一部 工場で切替未了

結果



- 工場建屋の強度不足により 太陽光パネル設置は断念
- 工場内と近辺の水路では発電に 適さない水量

新しい取組み



3次元細胞培養向け研究用試薬

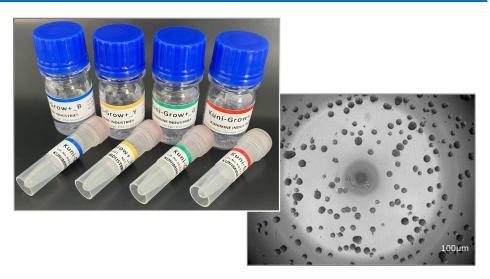




海水用ベントナイト







3次元細胞培養向け研究用試薬「Kuni-Grow+」を本年5月に販売 開始いたしました。

本製品は、細胞培養において3次元培養を簡便に行うための添加剤 として使用します。専用の培地や培養容器は不要で、従来の2次元 培養向けの基本的な培地に添加するだけで培地中の成長因子(血清 タンパク質など)を吸着し、細胞に作用することでスフェロイドの 形成を短期間(数日~1週間程度)で可能とする革新的な試薬です。 大学機関等との共同研究において、がん細胞をはじめとした様々な 細胞種でのスフェロイド形成が確認されております。

本製品の販売を契機として、創薬支援ビジネス領域で本技術の普及 拡大を目指し、成長が期待される細胞培養分野での事業拡大を図っ てまいります。



海水で安定液を作液しても高粘性、高ゲル強度を発現する新製品、 「クニフォースPX」を本年4月に販売開始しました。

当製品は洋上風力発電などの地盤調査を主とした海上ボーリング 用途を想定しております。

海上など清水の入手が困難な現場では、安定液に海水を使用するた め、従来製品では粘性を発揮させるためにベントナイト使用量の増 加や、他の添加剤の配合が必要でした。 当製品は海水で作液して も特性や機能を発揮し、施工効率向上や工期短縮が期待できます。

環境対応に伴い、国内外で再生可能エネルギーの利用拡大が見込ま れております。当製品が洋上風力発電建設の発展に寄与することで、 脱炭素社会の実現に貢献してまいります。



補足資料

参考資料 クニミネグループを支えるベントナイト プロニミネエ業株式会社

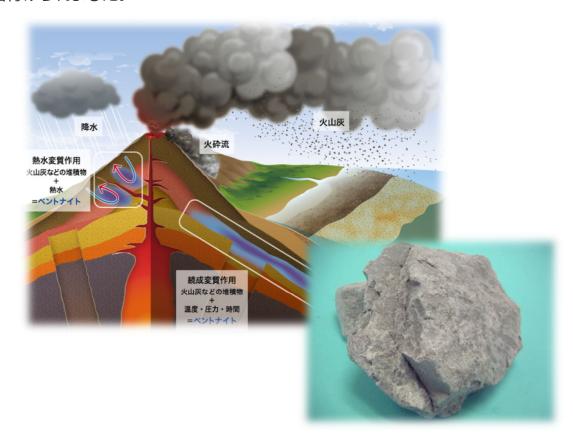


●ベントナイトとは?

ベントナイトとは、粘土鉱物であるモンモリロナイトを主成分とし、石英や長石などの随伴鉱物を 含んでいる弱アルカリ性粘土岩のことを言います。米国ワイオミング州のFort Bentonで発見され、 その地名に因んでベントナイトと名付けられました。

ベントナイトは、水中で吸収す ると膨潤し、さらに分散させると 粘性を示します。また、各種陽イ オンを吸着できる能力など、様々 な特性を持っています。

このような特性を有しているこ とから、鋳物、十木建築、ペット 用トイレ砂や化成品など、利用さ れる産業分野は非常に多岐にわ たっています。そのため、ベント ナイトは"1,000の用途を持つ粘 十"とも称されています。



参考資料 ベントナイトの用途







素形材(鋳物)





自動車や産業機械の部品となる鋳物を造るための鋳型は、 ベントナイトを粘結材として砂を成型することで造られま す。この鋳型は牛産性に優れたものであり、多くの鋳物牛 産に用いられています。

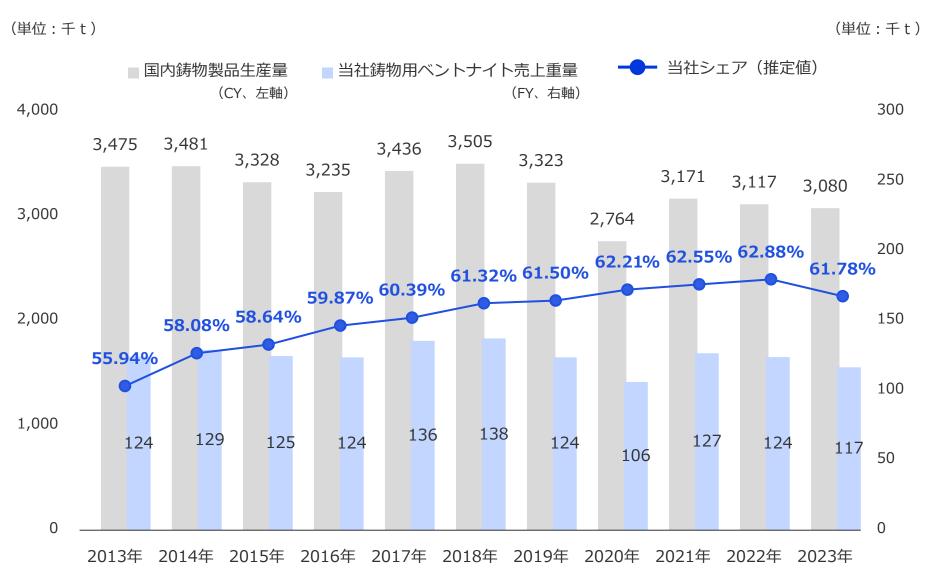
また、鋳物工場で排出される集塵ダストから重金属の溶 出を防ぐ用途にもベントナイトが活用されています。

素形材分野では、ベントナイト製品の販売のみではなく、 黒磯研究所での鋳物砂分析などを通じて、歩留まりの改善 などお客さまの様々なニーズに応える当社グループ独自の トータルエンジニアリングサービスを提供しています。

- ●クニゲルVAS ●クニボンドTY ●ネオクニボンド
- ●「クニボンドM」シリーズ●「クニボンドTY」シリーズ
- ●クニフォース

参考資料 素形材分野 国内シェア推移





出所:一般社団法人日本鋳造協会 銑鉄鋳物製品別生産量

※鋳物製品生産量より国内ベントナイト使用量を当社基準で推定し、シェアを算出

参考資料 ベントナイト事業②

ています。



環境建設(土木)

ベントナイトの持つ増粘性、遮水性を活かして、建物 の基礎となる杭を形成するアースドリル工法や、 一般廃棄物処分場での遮水工事にベントナイト混合土が 用いられているほか、「クニシール」や「クニシート」 の止水材が、主に地下構造物の防水材料として使用され

今後、脱炭素化への流れを受けて、地熱発電や海底資 源掘削等のボーリング需要も期待されます。更には、 低レベル放射性廃棄物処理用途など、環境負荷が少なく コストパフォーマンスに優れるベントナイトのニーズが 高まっております。

引き続き、国土強靭化に向けた国内主要インフラ整備 事業への継続的な取組みに加えて、廃棄物処分関連や地 熱発電事業への積極的な営業活動を展開してまいります。





「クニシール |

- クニゲルV1クニゲルV2クニゲルGSクニゲルGT
- ●クニゲルU ●クニゲルU ●クニキャップTG ●クニシール
- ●クニシート

参考資料 ベントナイト事業③





当社新ブランド「RAGDOLL」公式Instagram



ベントナイトの高い吸水性と粘結性を利用し、 ペットの尿などの排泄物を固め、手軽に処理 するペット用トイレ砂は、私たちの最も身近な ベントナイト製品です。

今後は自社製品の取り扱いのみではなく、 他ペットメーカーや大手小売店とのPB品の開発 も進めるなど、お客さまのニーズへの柔軟かつ 迅速な対応を図ってまいります。





- RAGDOLL プレミアムサンド 天然ジビエペットフード
- ●猫砂1番 ●猫砂1番金印 ●猫砂1番大粒

参考資料 クレイサイエンス事業①



ファインケミカル

独自の製法により天然ベントナイトを精製した「クニピア」、 合成技術によってつくり出された粘土「合成スメクトン」、さらに 合成スメクトンの親水性質を親油性へと改質した「有機化スメクト ンしなど高機能製品を販売しております。また、ゴミ焼却場の排ガ ス処理工程において使用される「環境保全処理剤」も当部にて取り 扱っております。

ファインケミカル分野における「クニピア」や「スメクトン」は、 高純度と特徴づけられる素材の強みを活かし、セラミックス、塗料、 樹脂といった工業製品に機能性材料として利用されています。さら に近年は、イオン交換技術をはじめとする、粘土の機能特性をさら に引き出すための技術開発に積極的に取り組んでおり、更なる用途 拡大を目指しております。

- ●「モイストナイト」シリーズ ●環境保全処理剤





参考資料 クレイサイエンス事業②



ライフサイエンス

当部は24.3期4月の組織変更により、「飼料添加物」や「食品 添加物」に加え、「化粧品」用途も加わることとなりました。

「飼料添加物」用途においては、当社ベントナイトがカビ毒吸 着能に加え、たんぱく質毒素も吸着する効能を生かし、畜産業界 における治療から予防医療へのニーズシフトへ対応するとともに、 今後は「動物医薬」用途なども開拓してまいります。

また、当社ベントナイトはクレイの一種として、増粘効果だけ でなく吸着剤、乳化安定剤、保湿剤などの成分として多くの化粧 品に採用されています。現在、天然由来の化粧品原料が注目を浴 びており、精製ベントナイトのクニピアシリーズはCOSMOS APPROVEDを取得いたしました。最近では当社独自の精製技術 を用いて、ベントナイトからモンモリロナイトを99%以上抽出 した高純度クニピア「クニピア-RF」を上市いたしました。

自然の恵みであるクレイと私たちのテクノロジーを融合し、 安心してお使いいただける製品を世界中へお届けしていきます。





- ●クニボンドRT
- ●ダブルボンド ●ダブルフリー●十壌改良剤
- クニミネ「ペプチオン® I
- ●「クニピア」シリーズ



アグリビジネス

製剤技術に強みを持つ当社グループでは、農薬加工において薬効成分 が放出される速度や量をコントロールする技術などを活かし、国内・ 海外の農薬メーカーなどから農薬の加工を受注しています。

農薬業界では消費者ニーズの多様化や商品サイクルの短期化に伴い、 多品種少量化の流れが加速するとともに、殺虫・殺菌剤と除草剤のクロ スコンタミネーションを防止する管理体制や薬害への対策強化が一層厳 しく求められています。

当社グループでは、多品種少量生産とクロスコンタミネーション防止 に対応できる体制を構築するとともに、独自の造粒技術に磨きをかけな がら、受注を拡大してまいりました。

今後もITなどを活用した省人・省力化への設備投資とともに生産管理 体制を強化しながら、顧客満足度の向上を目指してまいります。







主力商品・サービス

- ●農薬受託加工
- クレー細粒剤 クニゲルV1 天竜
- ●「クニピア」シリーズ ●「スメクトン」シリーズ



ご視聴ありがとうございました。

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、 記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

IRお問合せ先

https://www.kunimine.co.jp/toiawase/ir.html